

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

2018

1・1

No.46



平成29年12月14日「感謝の集い」友愛園食堂にて

主 な 記 事

- 新年のご挨拶 総裁 瑤子女王殿下
- 後援会会長退任にあたって 前会長 内藤 壽昭
- 後援会会長就任のご挨拶 会 長 長島日出男
- 友愛十字会評議員に就任して～福祉総合相談と法人への期待～ 評議員 秋山由美子
- アクティブ福祉in東京'17 最優秀賞受賞について 介護職員 尾上里織 三浦好顕
- 育メン介護職員 男女共同参画委員会 武井 安浩
- 世田谷施設合同防災訓練 安全委員会委員長 村上 正裕
- 施設紹介 友愛デイサービスセンター 砧デイサービスセンター
東京聴覚障害者支援センター 友愛荘
港区立障害保健福祉センター レスパイト 地域活動支援センター

『新年のご挨拶』

社会福祉法人友愛十字会
総裁 瑤子女王殿下



皆さま、明けましておめでとうございます。

寛仁親王の次女で、友愛十字会の総裁をしております、瑤子でございます。

昨年は、皆さま、どのような一年を、お過ごしになられたでしょうか？有意義に・楽しい日々を過ごされた方々もいらっしゃると思いますし、うまくいかない・辛い日々を過ごした、という方々もいらっしゃると思います。

私は、宮中の行事・父から受

け継いでいる公務や活動・私に對して依頼を下さって行つた公務・私的に参加している活動・家の運営管理などをしていくわけですが、一番に感じたことは、一年で考えてみると早いのに、日々で考えると長いという事です。これは毎年思っていることで、年々その思いは強くなる一方です。だからこそというのでしょうか？一つ一つの物事に対してもそうですが、より思い入れを持つようになったし、持つべきと強く思っています。

私は、毎回の仕事において【絶対に、悔いを残さない。今の自分が出来る全てを出し切る！】と思つて、言葉を発し・行動もしています。そして、それには責任と・相手が喜んでくれること、臨んでいることは何なのかを第一に考え・天国で見てくれているであろう父に、【恥ずかしい】などと思われることのない言動や行動をする。

というのが私のモットーです。ただこの私の骨子となっているものが、どれだけ相手に伝わって、理解をして貰えて、共感もして貰えているのかどうかは、毎回相手側に聞いているわけではないですし、聞いたところで、必ず本音を言ってくれるとは限らないので、毎回出し切つていても不安しか私にはありません。これは、周りには何故か伝わらない？どうしても分かつて貰えない父と私が共通で抱えていて、未だに直ることのないネガティブな性格の一つです。

皆さま、お氣づきでしたか？

(笑)

父と私は、お氣づきの方は少ないかもしれませんが、かなり似ているところがあると言いますか、男性か女性か・ヒゲがあるかないかくらいの違いで、それ以外は、同じと言っても過言ではありません。最近では仕草まで似てきているようで、嫁入り前なのに大丈夫だろうか。と

いう心配の種が、新たに一つ増えました。

さて、私なんかの話は、これくらいにしまして、皆さま、今年の過ごし方や、目標、抱負など、もう決められましたか？大きな目標を掲げた方々・一つ一つ越えられる目標を掲げた方々・去年よりは良い年になればいいなと考えられた方々、十人十色・三者三様いらっしゃると思います。近年、腹立たしい事件や悲しい事件などが増えて、安心で安全な生活ですら疑問符を感じざるを得ない状況の中ではありますが、少しでも皆さまが日々の生活の中に、【笑顔】のある時間が増えるよう、私は切に願っております。今年一年、皆さまそれぞれが、自分らしく・自分のペースで・有意義な時間を過ごされますよう、改めて、心からお祈り申し上げます。私の新年の挨拶とさせていただきます。

後援会会長退任にあたって

社会福祉法人 友愛十字会 後援会

前会長 内藤 壽昭



昨年6月末に老齢のため後援会長を辞めさせて頂きました。その前も円光寺の副住職、住職として昭和30年頃から十字会に入っており、実に60年以上の永いおつき合いで感慨無量のものがあります。この間職員の皆様方に一方ならぬお世話になり有難うございました。厚く御礼申し上げます。

「友愛十字会後援会」の仕事を一言で云うと、福祉施設を利用していらつしやる方々、そこで働いていらつしやる職員の方々、そして地元のボランティアの方々、三者が気持ちよく活動できる様にお互いにゆずり合って行く、その潤滑油の役割を果たして行くものだと、私なりに理解しています。後援会にはまとまった基金が有る訳ではなく、地元のごく普通の人々から頂いた僅かばかりの会費と寄付金で運営をしているので、十字会を財政的に援助するだけの力は有り

ません。有るのは「善意」と「奉仕の精神」だけです。逆に云うとそれだけあれば会としての存在価値が十分あるのではないのでしょうか。

それともう一つ、理事長さんが前号でお書きになっていた様に、当会は宮様を総裁として頂いているという事を忘れてはいけないと思います。それも宮様に無理にお願いしてなつて頂いたのではなく初代三笠宮様がご自分のご意志でお作りになった社会福祉法人の老舗なので、我々もそれを自覚して誇りを持っていつまでも大事に守って行きたいものです。

後援会会長就任のご挨拶

社会福祉法人 友愛十字会 後援会

会長 長島 日出男



昨年6月27日の後援会の総会において第6代の後援会長に選出されました長島日出男です。就任にあたりご挨拶申し上げます。まずは私のプロフィールを紹介いたします。

昭和27年1月1日に砦の地に生まれ、現在65歳であります。自身ではまだまだ若いつもりでいたので、65歳から高齢者といわれた時には軽くショックを感じました。

学校卒業後はさわやか信用金庫に勤めましたが、父が具合が悪くなつて介護の為に52歳で退社いたしました。退社後はしばらくなにもしてなかったのですが、地元の知り合いから地域の活動に協力してくれとの依頼があり引き受けているうちに気がついたら左記のような状態になってしまいました。

成城交通安全協会副会長、成城消防少年団指導員、一般社団法人世田谷青色申告会会長、三峯神社世話人などをしております。砦町町の会長には平成28年5月の町会総会にて選出されました。町会の会長になった為にまた役職が増えております。そして父が設立に関わった山野小学校を中心とした子供たちの野球チーム山野レッドイーグルス球団の球団長もしております。日々忙しく活動しております。

友愛十字会さんとの関わりは、私自身も砦町町会としても現在非常に強くなつていたところ。個人としては和響太鼓のメンバーとして、「友愛十字会 納涼盆踊り大会」で利用者さんに太鼓の指導、本番においての太鼓演奏、「友愛ふれあい祭り」で三峯神社の御神輿巡行の休憩所の協力を友

愛十字会さんがされる中、御神輿の迎え太鼓、休憩中の演奏、送り太鼓をさせて頂きました。

また、町会としては、従来から町会と友愛十字会との災害活動相互応援協定のもと防災訓練の合同開催により地域の防災力向上に相互に努力しております。この協定の中身をもっと深く掘り下げていきたいと思っています。

友愛十字会さんの法人の理念は「共に生きる」感じる。創る。つながら。となつております。その中で「つながる」は①様々な立場の人と、誠実に協働します。

②専門性を発揮して、情報の発信と地域との連携を推進します。

③地域社会から信頼を得て、期待される役割を果たします。

となつており、これは町会の活動の理念にも重なるものです。砦町町会も地域の安全安心の推進のために「つながる」精神を見習い頑張りたいと考えております。

今回、伝統と歴史のある友愛十字会さんの後援会会長に選出されたことは身に余る光栄であります。前会長の内藤壽昭さんのご指導を受け、また友愛十字会の会長、理事長さんを始めすべての役員の皆様とともに、より良い友愛十字会となるために後援会として出来ることを積極的に推進していきたいと考えております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

友愛十字会評議員に就任して 福祉総合相談と法人への期待

社会福祉法人友愛十字会
評議員 秋山 由美子



昭和42年から世田谷区役所の福祉系職場に勤務し平成27年5月に退任、平成29年4月より評議員に就任いたしました。自宅は友愛十字会と同じ砧地区です。

世田谷区では平成26年度に策定した世田谷区地域保健医療福祉総合計画で、地域包括ケアシステムへの推進や区民・事業者との協働による福祉の地域づくり、地区における総合相談や様々なネットワークの構築等を掲げています。

この計画を受け、行政の窓口であるまちづくりセンターと地域包括支援センターであるあんしんす

こやかセンター、社会福祉協議会の三者が一体となった、身近な地区での福祉の相談窓口の開設を目指しました。

対象者は高齢者に加え、障害者、子ども・子育て家庭、生きづらさを抱えた若者等にも広げ、福祉に関する相談は何でも受けるモデル事業を平成26年10月、砧地区で開始しました。

高齢者と引きこもりの若者の二人世帯などは、家族全体の問題として対応していかなければ、高齢者だけの相談では解決できないと考えていた職員もいましたが、すべての福祉相談に対応するのはとても大変なことでした。

砧地区のあんしんすこやかセンターは友愛十字会の運営です。

現場の職員の頑張りは勿論のこと、法人あがてのバックアップ・応援が、平成28年7月の区内全27地区での福祉の総合相談窓口の開始に繋がりました。地区で、三者が一体となって区民のあらゆる困りごとの相談にに応じていく体

制が整いました。

とは言うものの、本格的にスタートしてまだ1年足らずです。先駆的に取り組んできた砧あんしんすこやかセンターのこれまでの活動、地域に出向いての勉強会や一人の困り事から端を発した地域の方々との懇談会、待ちの姿勢から、様々な会合や集まりに出向く顔の見える関係を丁寧に作ってきた実績、専門職を交えての事例検討会の積み重ね等は後に続く地区に多くの安心感を与えました。今後も法人を挙げて、広報に力を入れ、他の法人に発信するとともに地域の方々にきめ細かな情報を提供し続け区民の安心な生活を支援して欲しいと願っています。

また平成28年の社会福祉法の改正では「地域における公益的な取り組み」の責務規定が創設されました。

無料又は低額な料金で高齢者の生活支援や在宅の単身高齢者や障害者への見守り、生活困窮世帯の子どもに対する学習支援などの福

祉サービスを積極的に提供するよう求められています。

世田谷区は平成27年3月子ども・子育て応援都市宣言を行いました。今後地域の宝である子どもたちへの支援にも目を向けた活動を期待しています。

今回の法改正で、評議員は法人経営の基本的なルールと経営体制を決定する大切な役割が与えられました。評議員としての役割を果たせるよう勉強するとともに、地域住民の一人としても、お祭りや行事、様々な取り組みにも参加し友愛十字会のことをよく知り、法人の今後の発展に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



『アクティブ福祉 in 東京・17』 最優秀賞受賞について

砧ホーム

介護部介護係

尾上 里織

三浦 好顕

好顕

介護イノベーションの“実行力”

介護福祉士 尾上 里織

過日9月27日に京王プラザホテル（新宿）で開催されました、東京都社会福祉協議会が主催し、今年度で第12回目となる高齢者福祉実践・研究大会『アクティブ福祉 in 東京・17』に参加し、研究発表をしました。この大会は東京の高齢者福祉の現場から特徴的な実践や専門的な研究を施設職員や介護を目指す学生に向けて発信する、まさに東京のアクティブな高齢福祉の実践研究発表大会です。砧ホームは本大会にて、「入浴移乗ボードの導入プロセスにみる持ち上げない介護の推進による効果」という発表を行い、発表テーマ別の栄えある最優秀賞を受賞することができましたので、誌面を拝借しご報告いたします。

この発表は、入浴ケアの面で湯浴み後のご利用者を職員二人掛

かりで更衣ベッドに抱え上げていた現状を、移乗ボードを導入することで一人の職員がご利用者を横滑りにより更衣ベッドに介助することが可能になったという実践と考察です。所謂「持ち上げない介護」の推進により、職員とご利用者の双方にとって安全で安心できる介助が叶えられただけでなく、入浴介助業務そのものの効率化を成し得たという、これからの介護において大変重要な、実に“介護イノベーション”と言うべき取組を発信出来たことが、高い評価に繋がったと感じています。また本介助において事故やヒヤリハットが一件も発生していないことも、大きく評価されたのではないかと感じています。



受章直後の壇上の感動と興奮！

砧ホームは今回で3年連続のアクティブ福祉での受賞となりました。これもひとえに、砧ホームのチーム力が成し得た成果だと感じています。事業計画の計画段階から目標達成、発表の準備に至るまで、他職員の協力なくしては、今回の受賞は実現していません。

3年連続受賞の“実現力”
介護福祉士 三浦 好顕



発表者の二人と大会マスコット♡

職員の発想を、後押しする環境が構築されているからこそ実現した快挙だと思います。そして、今回の受賞を含め、砧ホームが持っている組織力が評価されたものだと思っています。

さらに、その発表が評価されるということは、都内の福祉施設や都民の皆様のみなならず、全国の福祉従事者に「砧ホームここにあり」と発信することができものと思います。インターネットを通じて受賞の情報は誰でも閲覧することが出来ます。砧ホームの取り組みを知った方が「砧ホームで働きたいなあ」と思ってもらえらるのと、それが本望であり発表者としての冥利に尽きます。

しかも、3年連続の受賞です。アクティブ福祉での発表を目的に日々の業務を行ってはいけません。が、「新しい取組に挑戦しよう」という

「育メン介護職員」

社会福祉法人友愛十字会

男女共同参画委員会

武井

安浩

砧デイサービスセンターではこれまでに三名の男性職員の育児休暇取得実績があります。それぞれの体験談をご紹介します。



砧デイサービスセンターに所属していました。平成22年に、長女の出産を機に育児休暇を取得しました。育児休暇を取得する男性職員は初めての

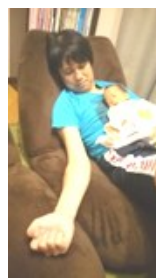
ことだったそうです。おむつ交換・お風呂など、育児に多く関わることとで、育児休暇後もスムーズに育児に関われるようになりました。

妻からも体力が戻らない時期に、育児休暇を取ってもらえたことで、一呼吸置くことができ、体を休めることができたから、心に余裕をもって育児に入ることができたと言われました。

砧あんしんすこやかセンター

介護支援専門員 寺島 崇宏

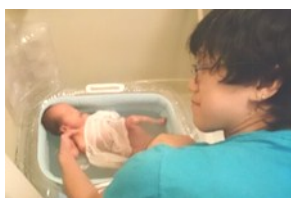
私も妻もお互いの実家が東京から遠く、基本的には夫婦二人で家事と育児のすべてをこなさなくてはなりません。その為、私が育児休暇をとることは円満な家庭生活を送るうえでは必須な状況でありました。幸い、二人の職員が育児休暇を申請されている実績があり、職場の理解も深く、大変スムーズにお休みを頂く事が出来ました。休暇中の三ヶ月間は決して楽な状況ばかりではありませんでしたが、結果としては二度とない、貴重で有意義な時間を過ごす事ができました。



砧デイサービスセンター
介護職員 齋藤 真文

取得する際に苦労した点としては、同僚への申し訳なきや仕事を休む間の金銭面のやりくりだと思えます。幸いお休みの間に賞与もあり、そちらで家計をまかないました。妻と二人で子供に合わせて起きては寝ての繰り返しだったので、昼間の家事はなるべく私が行い妻にはなるべく休んでもらうように過ごしました。慣れない育児に取り組んだことで、子供のことに関わる事が増えたと思います。妻と子供のこと忘れられない思い出ができたとも良かったです。

砧デイサービスセンター
介護職員 西口 敦



育児休暇期間中は、一名少ない状態です。そのため、職員一人一人の負担は増え、業務で補いました。育児という前向きな休暇であったため、周囲の不満はなく、休暇の期間が決まっているため、復帰まで何とか頑張るという目標でお互いをカバーしました。

育児休暇を終えた職員は、現在、育児の経験により成長した姿で職場に復帰し活躍しています。

男性職員が家事、育児を経て改めて女性への理解を深めることが、女性活躍の場を増やすことにつながっていくのではないのでしょうか。



世田谷施設合同防災訓練

社会福祉法人友愛十字会

安全委員会委員長

村上 正裕
(防火管理者)

安全委員会は、友愛十字会の世田谷施設のご利用者及び職員等の災害防止、危険防止等の安全を確保することを目的とした委員会です。その中には、防災訓練の年間計画立案とその実施があります。災害に対する実効性のある対応力を培うためには、訓練を定期的に実施することが欠かせません。世田谷施設では毎月一回、出火場所をかえて防災訓練を実施しております。

9月には、成城消防署ご指導のもと、砧町町会、成城消防団、砧総合支所、友愛十字会自衛消防隊による合同防災訓練を実施いたしました。これは、地震による火災発生を想定した訓練でその内容は、最初に①施設内緊急放送、通報連絡、避難誘

導訓練を行いました。次に、②自動通報システムによる通報訓練を行いました。それから、③消火栓からのスタンドパイプと動力消防ポンプによる一斉放水訓練を行いました。スタンドパイプとは、いざという時、町内会や自衛消防隊が活用できる消火器材のひとつで、道路上にある消火栓や排水栓に差し込み、ホースをつなぎ消火を行います。これは、東京都より貸与



消火訓練中

されております。

また、防災訓練参加者向けに、④希望者による消火器での初期消火訓練、それから、⑤煙テントによる避難模擬体験を行いました。火災が起こった場合には、煙が入らないように口と鼻をハンカチやタオルで抑え、姿勢を低くしながら逃げます。今回の訓練では、テント内に充滿した煙の中から、いかに素早く屋外に退避できるかを体験しました。

合同訓練は、参加した皆様真剣に取り組んで頂いたおかげで、一人の怪我もなく無事に終えることができました。この経験が、万が一の災害時に活かされますように心から願っております。また、ご指導頂きました成城消防署、成城消防団、砧総合支所、砧町町の皆様には厚く御礼を申し上げます。

防災対策には、十分とか大丈夫というものはございません。



煙テント体験中

「天災は忘れた頃にやってくる」という諺がありますが、地震や台風、豪雨、落雷などは何時やってくるのか分かりません。そこで、何時やってきても対応できるように「心の準備」をしておくことが大事だと思っております。防災訓練をしっかりと行うことで、一人ひとりがご自身の身の安全を守り、災害による被害を最小限に抑えることができますよう願っております。

友愛デイサービスセンターのご紹介

友愛デイサービスセンター
副主任生活支援員 太田 貴久

当センターは、障害者総合支援法の規定による支給決定を受けられた重度身体障害（児）者の方を対象とした生活介護事業と短期入所事業を行っております。

生活介護事業では、機能訓練や創作活動、音楽療法、レクリエーションなどを行っています。ご利用者やご家族から特に要望の多い外出活動では、ご利用者が月に1回外出できるようスケジュールを組み、



ゆとり外出：花見



宿泊：横浜MARK IS

近隣のカフェやスパ、果樹園、公園などへ出かけています。外出活動を通して、地域社会と繋がりを持つと共に、ご利用者の社会参加を促しています。また、隔年ごとに災害時の帰宅困難を想定した訓練を実施し、インフラを制限した中

で当センターに宿泊するなど、有事に備えた取り組みも行っています。

短期入所事業では、ご利用者の状況や生活リズムに応じたサービスを24時間提供しています。和やかな雰囲気の中で、寛いだ生活ができるように心掛けています。安心安全を第一に、明るく元気に楽しい友愛デイサービスセンターです。



腹臥位療法

兜贈呈

主任生活相談員 山本健一

どんな笑顔が見られるかな？楽しんでもらえると良いな。そんな会話をしながら皆さん、模造紙で兜を折っていました。高年齢者通所介護施設の砧デイサービスセンターには、近隣地域から140名程の方が月曜日から土曜日まで毎日35名〜40名程の方がご通所くださっています。昨年5月、端午の節句に合わせて、通所されている皆様に紙で兜を折っていただきました。更に最高齢104歳の方には書道で「兜贈呈」の題字を書いていただき、お子さん達にプレゼントしたいと考えました。



兜作りの様子



成育しせい保育園の皆さんに被ってもらって



こども療育パオの皆さんへお届け

に施設長と職員が持参することができ、お子さん達からはお返しに9月の敬老の交流会にて歌を披露してくださいました。砧デイのご利用者皆さんにとりましては、曾孫にあたるような歳のお子さん達に喜んでもらえる、笑顔が見られることが励みになり活動にも活気が出ます。これから各種交流や活動によって、笑顔の連鎖が起こせるよう企画してまいります。

港区立障害保健福祉センター「こども療育パオ」へは端午の節句の行事にて東京タワーへ鯉のぼりの観賞に外出した際、利用者様の代表からお渡ししました。また昨年より交流している「成育しせい保育園」へはこどもの日の前

その人の表現で、 表現することを心がけて

東京聴覚障害者支援センター

支援員 山城 慶恵

4月から支援員として働き始め、早いもので8か月目となりました。センターでの毎日が充実しており、本当にあつという間でした。

聞こえない人⇨手話・筆談ができると思っている方々もいますが、センターの利用者はまったくそうではありません。学校に通った経験がなく、日本語で読み書きできるのは自分の名前だけという方もいます。政見放送などの手話通訳を見て理解できる利用者はほんの一握りです。では、普段利用者とのようにしてコミュニケーションをとっているのかと言えば、身振り、ジェスチャー、イラスト、実物を見せるなど様々です。利用者一人ひとり、どの方法が伝わりやすいかというのは時と場合によって異なります。特に意識するようにになったのは、「その人の表現で、表現する」ということです。

これはどういうことかというところ、その人が出す表現をこちらも使って（真似して）表現するということですね。例えば「鍵」。鍵穴に鍵を差し込む表現で「鍵」と表現する人もいれば、南京錠のよう



山城支援員

な「鍵」で表現をする人もいます。手話も日本語もまったく出来ず、部屋の鍵をキーチェーンに付け、腕に巻き付けている利用者がいるのですが、その人は巻き付けの表現で「鍵」と表します。特に宿直・早番の時間帯は利用者の普通の生活の様子が浮き彫りになりますから、何をどのように表現するかがよく分かります。一方的に手話を繰り出すのではなく、相手に合わせた方法で伝えることが支援の基本であると思うようになりました。

利用者の方全員に、地域に出て自立した生活ができるようになってほしいと思っています。何かを達成した、できるようになったという自信が次の大きな一歩へ繋がります。それは、誰にでも共通だと思います。「センターであれだけ頑張ったのだから、地域に出ても大丈夫」という自信を利用者全員に持ってもらえるよう、一人ひとりに合わせた支援をしていきたいと考えています。

災害時訓練の一日

友愛荘

安全委員会委員長 佐々木道浩

平成29年10月18日（水）に参集訓練、炊き出し訓練、起震車体験を行いました。災害時、公共交通網が使用出来ないことと想定し、職員が友愛荘まで徒歩や自転車での出勤をしました。交通機関のありがたさを感じ、実際に災害が起きた際の出勤ルートを確認することができました。

炊き出し訓練では、園庭で災害時用の備蓄食品を大きな鍋で温め、実際に利用者様、職員ともに食べ、温かい物が食べられる事の幸福感を噛み締めました。午後には、町田市から起震車、消防署の方に来て頂き、震度1〜7までの揺れを職員が体験し



起震車体験

炊き出し：ハヤシライス温め中



災害時訓練の一日を通して、災害が起こった際の対応や、自身の身体を守り、利用者様の安全を確保し迅速な行動をすることが出来ることを実感しました。

ました。実際に起きた阪神淡路大震災や関東大地震の揺れを体験し、凄まじい揺れの中、身動きがとれず、座っているだけで精一杯になり、終了後は身体がぐくぐらしてしまいました。また、監督消防士より「30年以内にほぼ確実に大きな地震が起こります。心の準備だけでも大事にしてください。」という講評が胸に残っています。



参集訓練

レスパイトのご紹介

港区立障害保健福祉センター
レスパイト

主任支援員 陸田 光昭

港区立障害保健福祉センターでは、港区の指定を受けて様々な事業を行っています。ヒューマンぷらざに併設されているステイハイソ竹芝の8階フロアでは、レスパイトとしてショートステイ・緊急一時保護の事業を行っています。対象者は、港区民で身体障害者手帳（1・2級）又は愛の手帳をお持ちの方、脳性麻痺の方、進行性筋萎縮症の方を対象としています。年齢制限は特にありませんが、介護保険サービスを利用している方は原則そちらを優先することになっています。利用は、宿泊



楽しい団欒といこいの場「談話室」

も数時間の滞在（デイ利用）も可能です。

レスパイト事業という意味を考えると、保護者や介護者の皆様が目まぐるしい在宅介護を中断して、休息や必要な用事を安心して済ませられるなどの家族支援が重要な事業目的です。ただし、ご利用いただくご本人様が「行きたくない」「早く帰りたい」と話すようでは、当然ご家族様の安心には結びつきません。特別な活動や作業などのプログラムはないため、生活支援や見守りが主な支援になります。すが、関わる中でご本人様にとっても快い時間となるように職員一同努めていきます。ご家族様やご本人様の「レスパイトを楽しみにしていた」という言葉は、心から嬉しく思います。



快適な居室（個室）

「自立」と「社会参加」をめざして

港区立障害保健福祉センター
地域活動支援センター

自立訓練（機能訓練）担当

主任作業療法士 小出 由貴子

港区立障害保健福祉センターでは、平成21年指定管理を受託した頃より、障害者総合支援法の自立訓練（機能訓練）を運営しております。作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師がチームで利用者支援にあたっております。

利用対象者は、脳血管障害や頭部外傷による身体障害や高次脳機能障害等の後遺症状を抱えている方、難病の方が通われています。

病院で行なわれる機能回復を主としたリハビリテーションだけではなく、日常生活や社会生活を送ることに重点をおいています。そのため、機能訓練室にとどまらず、自宅やその周辺、公共交通機関を利用する等、支援場所は多岐にわたっております。社会生活に適応していくためには、単に身体機能

面にだけアプローチするのではなく、生活リズムの整え、生活環境の整え、福祉サービスの整え、福祉用具の選択等が必要になります。その他、社会的コミュニケーション能力を伸ばすためのグループディスカッションや、日常的な疾病管理を含めた健康管理ができるような支援にも力を入れることで、自立訓練を終了した利用者は、その人らしい自立や、センターを含めた地域活動に参加したり、復職などの社会参加を果たす利用者の方が増えました。

これからも、利用者ひとりひとりの自立と社会参加を支援していきたいと思っています。



利用者さんが考えてくださった
機能訓練のロゴ

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対してご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。
(平成29年7月1日〜平成29年11月30日)

奉仕活動

○世田谷更生館

青山 健児
秋山 一代
石合 幸雄
伊藤 幸子
大島 公子
金子 伸恵
木村 和江
黒田 真実
小林 健太郎
佐々木 栄子
穴戸 美菜
原岡 美之
樋口 宏子
平岡 佳代
福永 春美
前園 陽子
渡邊 砂代里

○友愛園

市毛 昌子
栗原 美和子
高木 和子
成田 信子
箕輪 千賀子
藪田 千賀子
慶應義塾大学
ライチウス会
天理教北多摩東部支部

○友愛デイサービスセンター

岸井 豊子
久保山 由美子

○友愛ホーム

小島 修治
山川 敏江
末木 江津子
高安 瑠璃子
棚網 純子
中山 康
馬場 武子
早田 由貴子
深井 真理子
山下 ヤス
山田 たき子
米田 恵子
アンサンブル3355
ガールスカウト
東京都第61団
幼稚園
幼稚園
お母さんクラス
天理教北多摩東部支部
学校法人山野学苑

○砧ホーム

石井 公子
石田 淑子
市毛 昌子
遠藤 一俊
大西 紀美子
大矢 末子
片橋 町子
岸本 幹子
小畑 あや
小原 祐子
小松 政江

○砧あんしんすこやかセンター

輝 真理子
田中 信子
清水 校子
西多 法子

○砧デイサービスセンター

梅津 三千代
小野 栄子
坂井 知
鈴木 賢一
寿乃田 雅子
田村 正子
向井 忠彦
たんぽぽ
ホープレイベント

○砧介護保険サービス

野崎 眞喜子
橋本 福二
深野 木馨
間瀬 紘子
山本 房江
(株)ケイアイ
パナソニック
エイジフリーショップ
青野 美重子
浅川 高文
石井 亜弥
石塚 小百合
石原 美希
井上 夕貴
奥村 睦
金井 誠実
鈴木 智代
曾輪 信明
高橋 寛人
道下 恵美子

○東京聴覚障害者支援センター

石川 信子
石原 信行
市川 美代子
円乗 朋子
小笠原 清子
河端 喜美子
木城 守子
斉藤 妙子
佐藤 君子
末永 壱来
長尾 さな江
宮坂 貴三江
武藤 春代
望月 紀子
矢口 里子

○港区立障害保健福祉センター

伊藤 佳一
植村 登美子
北出 千佳
コジノ ジュン
小林 和子
高田 眞子
武田 敦子
田中 里奈
玉置 正子
二木 江津子
西 清子
野田 明子
原 三智子
宮田 真
山口 博子
米田 ひさの
若林 昭美
一富士フードサービス(株)
(有)ノバック
ブルデンシヤル
生命保険(株)
手話サークル「て」
港区民生委員

○本部

相原 トミ子
秋山 隆子
浅山 恵子
石井 盛利
大島 弘之
川上 浩太郎
鈴木 和子
鈴木 清美
鈴木 昇
高橋 美紀子
長島 日出男
濱口 武
松永 瑞静(元柏朋会)
松原 利枝
(有)新井電気工業所
インディアンレストラン
(有)大蔵自動車商会
大蔵住宅自治会
大蔵東部町会
会長 安藤 茂
(有)カインドサービス
柏・絆の会
法人格砧町自治会
砧町会
砧まちづくりセンター
砧幼稚園
園長 白井 潤一
ココブランド(株)
代表取締役 西村 勝彦
砂井電気管理事務所
成城消防団第五分団
宗田 昭光

寄付金

〈前頁より〉

寄付物品

世田谷区

世田谷区 I K K 福祉協会

篠澤 則和

世田谷区立砧工房

世田谷区砧総合支所

山本 久美子

世田谷区社会福祉協議会

（公社）全国建築飲料水管理協会

代表理事副会長 西村 勝彦

T M C 通り商店街

日本赤十字奉仕団砧分団

N P O 法人はあと世田谷

ミニデイきぬた

山野小学校

校長 大字 弘一郎

山野小学校 P T A

悠遊踊ろう会 竹内 普子

リビングストアタカハシ

レイアロハフラスタジオ

木村 やよい

和響太鼓

和響太鼓 木村 忠敬

○砧ホーム

藤田 千代子

○東京聴覚障害者

支援センター

名取 栄根

M S 商会 大野 政孝

志村城山町会

（有）八百幹

○友愛荘

友愛荘家族会

○本部

柳田源三

朝日新聞サービスアンカー

A S A 大蔵

（有）カインドサービス

さわやか信用金庫

読売センター砧

○友愛デイサービス

センター

関澤 勢津子

○友愛ホーム

日本たばこ産業（株）

○砧ホーム

大野 勲

田中 康子

藤間 英治

東京都ミシン商工業

協同組合

○砧デイサービス

センター

瀧口 勝

矢藤 美枝子

○東京聴覚障害者

支援センター

浅川 高文

（有）カインドサービス

J X T G ホールディングス（株）

○友愛荘

友愛荘家族会

職員異動

（平成 29 年 7 月 1 日）
平成 29 年 11 月 30 日

○昇任

砧ホーム

園長 鈴木 健太

（砧ホーム介護部長）

港区立障害保健福祉センター

みなとワークアクティ

施設長 田村 英治

（港区立障害保健福祉センター
運営管理部長）

○配置換え

友愛園

園長 宮崎 浩

（砧ホーム園長）

港区立障害保健福祉センター

センター長 江原 徳至

（本部事務局総務部長）

・友愛園園長・コーポ友愛ホーム長

港区立障害保健福祉センター

工房アミ

施設長 神田 市郎

（みなとワークアクティ施設長）

本部事務局付 松本 光正

（港区立障害保健福祉センター
センター長）

○併任

本部事務局

総務部長 金井 博

コーポ友愛

ホーム長 村上 正裕

港区立障害保健福祉センター

運営管理部長 小泉 貴宏

○退職

港区立障害保健福祉センター

工房アミ

施設長 太田 政美

編集後記

平成 30 年を皆様はどのよう
うにお迎えでしょうか。夏
には冬が待ち遠しかった小生です
が、冬になるとやはり夏が恋しく、
銭湯の岩盤浴で気を紛らわす今日こ
の頃・・・明日も寒さと格闘です！
さて、「明るい日」と書いて「明
日（あした）」と読みます。明日が
明るい日でありますよう、編集委員
一同、ご愛読の皆様のご健勝とご多
幸をお祈り申し上げます。

ゆうあい編集委員会 副委員長

砧ホーム

園長 鈴木 健太

ゆうあい 第四十六号

平成三十年一月一日

発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 金井 博
所在地 東京都世田谷区
砧三丁目九番十一号

電話（〇三）三四一六・三二六四
<http://www.yuai.or.jp>